

第 69 回日本酪農研究会 開催のご報告

日本酪農青年研究連盟(酪青研：山本 隆委員長)主催の第 69 回日本酪農研究会・酪青研創立 70 周年記念大会が、11 月 14～16 日の 3 日間、京王プラザホテル札幌にて、全国から約 450 名の参加者を集めて盛会に開催されました。来賓として、農林水産省や北海道庁をはじめとする関係行政・団体等、社内外から多くのご臨席を賜りました。

主催者挨拶した山本委員長は「我が国の酪農にとって、この 10 年は激動の時代でした。そしてこれからの 10 年は更に大きな変化の時代となるでしょう。この 70 周年をひとつの節目として今大会が設立の精神を語り継ぎ、さらなる連帯意識を高めていく大会となることを祈念いたします。」と挨拶しました。

当社グループを代表して挨拶された西尾代表取締役社長は「この度、日本酪農青年研究連盟が創立 70 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。当社グループの創業者の一人である黒澤西藏翁は、雪印メグミルクの源流の一つである「北海道製酪販売組合(酪連)」や、後に「酪農学園大学」となる「北海道酪農義塾」の創立者で「酪青研」結成においてもその大きな原動力となり、「日本酪農の父」と呼ばれます。黒澤西藏翁は「健土健民」という信念のもとに幾多の困難に立ち向かい、日本の酪農の発展に尽力しました。そして、その思いを受け継ぎ、私たち「雪印メグミルク」と「酪青研」「酪農学園」の今日があります。すなわち、我々の根底には黒澤西藏翁の思いがあるということです。どのような環境にあろうとも、黒澤西藏翁の思いを受け継ぐ私たちのグループ企業理念のひとつである『酪農生産への貢献』の実現に全力を挙げ、国内生乳の価値を最大化するモノづくりを通じて、酪農乳業界の持続的な発展に貢献したいと考えています。」と挨拶しました。

研究会では、全国から選抜された酪農家 6 名による酪農経営発表と 5 名の意見メッセージ発表が行われ、経営発表の中から「足るを知り、経営に活かす」と題して発表した北海道協議会釧路地方連盟の原田敦さんが最優秀賞(黒澤賞)・農林水産大臣賞に輝きました。

今回の経営発表では、発表者全員が酪農 2 代目または 3 代目の後継者で就農後 10～20 年の経験があり、それまでの経営基盤や経営方針を踏襲しながら最新技術の導入や地域資源の活用など積極的に経営改善に取り組んでいる事例でした。その為、両親の高齢化を見据えて雇用労働力の導入や外部への作業委託を積極的に進めていることも特徴的でした。

発表会後に行われた講演会では、「黒澤西藏からのメッセージ『心田を耕せ』」と題して、学校法人酪農学園学園長 仙北富志和先生より、続いて『つながる酪農人への道』と題し、とわの森三愛高等学校 アグリクリエイト科機農コースの生徒の皆さんよりご講演いただき、当社ならびに酪青研、酪農学園の起源に思いを馳せる大変有意義な記念大会となりました。